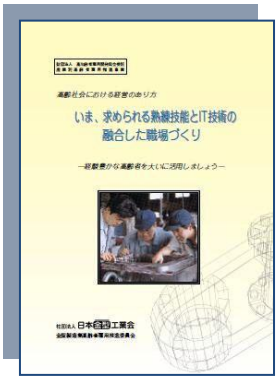
財団法人　高年齢者雇用開発協会委託
産業別高齢者雇用推進事業

平成 14 年度

金型製造業
いま、求められる熟練技能とIT技術の融合した職場づくり

社団法人日本金型工業会
金型製造業高齢者雇用推進委員会



>>目次

- 金型製造業における高齢者雇用のメリット
- 金型製造業における高齢者雇用推進方策
- 金型製造業における高齢者雇用の推進方法
- 在職老齢年金、継続給付金の活用方法
- 60 歳以降の賃金シミュレーション
- 各種助成金の紹介

製造業のコア技術である金型製造業は、ユーザーの海外への生産移転が加速しており、加えて、3 次元CADシステム等IT（情報技術）化の進展により、高齢者の職域が狭くなっているという指摘もあります。そこで、現役世代の雇用確保との調和を図りながら、高齢者の活用と雇用の確保についての方策について、ハンドブックとしてまとめました。

高齢者雇用のメリット

➢ 近い将来の労働力不足に対する備え

製造業のコア技術である金型製造業は、若年層のモノづくり離れが進むとともに、就職しても数年で離職するケースも多く、人材の採用・確保が難しい状況に置かれています。このような若年労働者の採用・定着難に加え、少子・高齢化の進行による中長期的な労働市場の逼迫への対応として、豊かな経験・能力を持つ高齢者の雇用の推進に取り組む意義は大きいものがあります。

➢ 高齢者の持つ熟練技能の継承

自社の強み・特徴を最大限活かしながらユーザーニーズを満足させることが、これからの金型製造業に求められています。そのためには、高齢者の持つ熟練技能を効果的に発揮させることが重要です。

また、若手従業員の育成や技能の伝承のためにも高齢者の果たす役割は大きいものがあります。

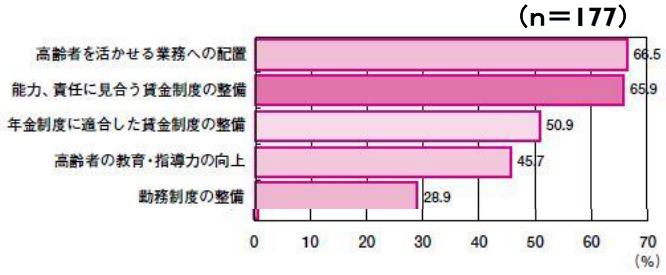
➢ 年金、助成金の活用による賃金コストの軽減

高齢者の持つ、労働時間、賃金等の多様な就労ニーズを生かしていくなかで、「在職老齢年金」の受給希望者の採用、再雇用や「高年齢者雇用継続給付金」等の活用により、従業員の賃金水準を大幅に低下させることなく、会社の賃金コストの軽減を図ることができます。

高齢者雇用推進方策（ガイドライン）

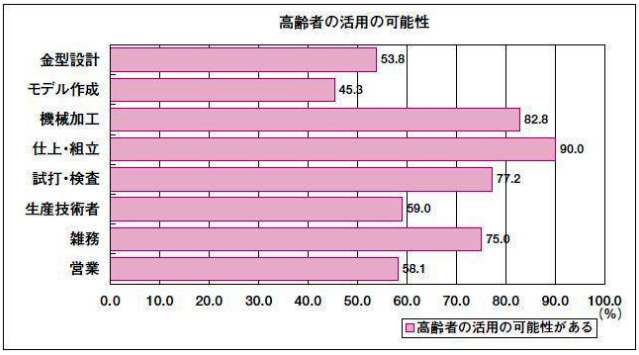
60 歳以上の高齢者の能力を活かしていく方法について経営者に聞いたところ、「高齢者の経験や技術・技能が活かせる業務への配置」、「能力や責任に見合った賃金制度の整備」が6割超の結果です。

＜経営者の考える高齢者の活用対策（上位5）＞



1. 高齢者のタイプに応じた職域の確保

金型製造業における高齢者雇用はあまり進んでいません。ただし、職場、工程によっては高齢者の雇用が可能です。現場のニーズに合わせて高齢者の経験や技術・技能を最大限活かすように配置することが必要です。



2. 雇用可能性を高めるための能力開発

高齢になっても働くことができるように、高齢者自らが積極的に技能・技術の向上や資格取得に取り組むことが必要です。そのために、会社としても教育訓練、能力開発の機会を提供することが求められます。

3. 多様な就労意欲をもった高齢者ニーズに合った働き方の選択

多様な雇用形態、勤務形態のなかから、会社と高齢者の双方にとって納得できる働き方を可能とする制度を構築することが必要です。

定年退職後に考えられる雇用形態

① インストラクター（技術指導員）として技術・技能の伝承の役割を担う
② 即戦力の現場作業者として働く
③ 海外への技術指導を行う
④ 個人事業主として会社と請負契約を結んで働く
⑤ 高齢者を中心とした子会社で働く

定年退職後に考えられる勤務形態

① 定年退職以前と同じようにフルタイムで働く
② 定年退職以前と同じようにフルタイムで働くが残業、休日出勤は極力行わない
③ パートタイムとして働く（1 日の勤務時間や週の勤務日数を短くする）

4. 高齢者の活用を促進する合理的・納得的な賃金・処遇制度の整備

定年を境に、賃金・処遇制度を年功序列、年功賃金制度から高齢者の職務、能力、貢献等の要素を重視する制度に見直すことが考えられます。その際には、「在職老齢年金」や「高年齢雇用継続給付金」等の活用を踏まえ、一方、高齢者のモラールの維持も図りながら、高齢者の活用を促進するような賃金・処遇制度を整備することが必要です。

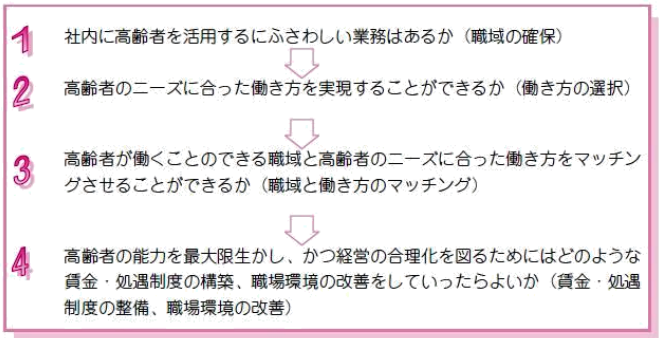
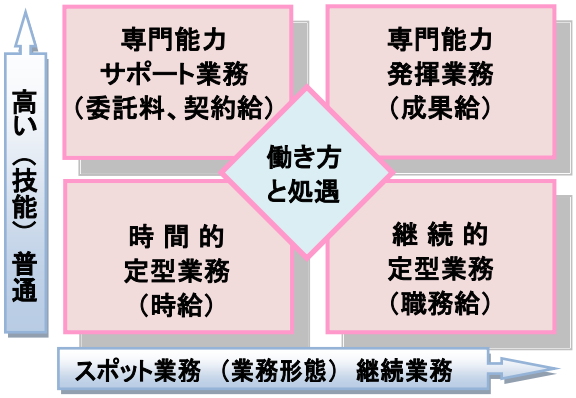
5. 高齢者の能力を十分に発揮できるような仕事や職場環境の工夫

加齢によるマイナス要因を配慮し、高齢者が能力を発揮しやすくするための仕事や職場環境の改善が必要です。高齢者が働きやすいということは 、そこで働く従業員全員が働きやすいということなのです。

仕事や職場環境の改善方法
⇒職務再設計の視点を持つことが重要

- 単独作業をペア勤務チームワーク作業に再編する
- 職務内容をライン業務と専門的業務に整理し、専門的業務については専門的能力を保有している高齢者が遂行する

また、このようなハード面の改善に加えて、高齢者が同一職場で働くことに対する職場の理解や良好な人間関係の構築も欠かせません。

ガイドラインを踏まえた高齢者雇用の推進方法

金型製造業において高齢者雇用を推進していくには、金型製造業高齢者雇用推進ガイドラインを踏まえて、高齢者が働くことのできる職域の確保と高齢者のニーズに合った働き方をマッチングさせ、それぞれの業務にふさわしい賃金・処遇を当てはめていくことが重要になります。